

まちづくり交付金 事後評価シート
阿寒湖温泉地区

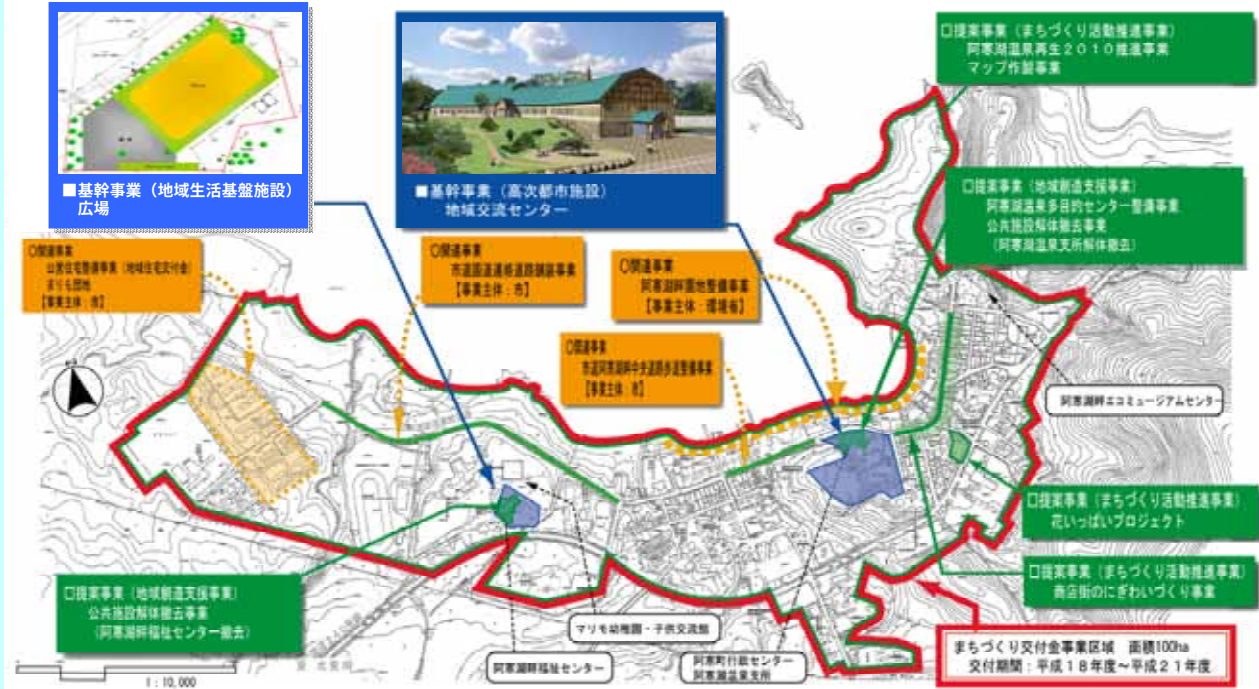
平成22年3月

北海道釧路市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	釧路市		地区名	阿寒湖温泉地区			面積	100ha		
交付期間	平成18年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	1,108	国費率	0.44				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名										
		提案事業	地域生活基盤施設(広場)、高次都市施設(地域交流センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(公共施設解体撤去事業、阿寒湖温泉多目的施設整備事業)、まちづくり活動推進事業(阿寒湖温泉再生2010プラン推進事業、マップ作製事業、商店街のにぎわいづくり事業、花いっぱいプロジェクト)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
変更	平成 年度～平成 年度												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値	目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み			
	指標1	観光客入込数	人/年	1,700,000	H16	1,900,000	H21		1,040,000	×	あり なし	・観光業不振の状況下で、国内の団体客の落ち込みが大きく、入込客数の増加は見られなかった。 ・個人宿泊客の増加や宿泊客の滞在時間の延伸など、観光構造の改革が進みつつある。	H22年7月末日
	指標2	コミュニティ施設利用者数	人/年	4,134	H16	19,200	H21		19,500	○	あり なし	市民ニーズにあった利活用しやすい地域交流センターの整備により、市民サービスの向上が図られ、施設を中心とした市民活動が促進されたことが結果につながった。	H22年4月末日
	指標3	自然保護活動参加者数	人/年	500	H16	1,000	H21		500	×	あり なし	・阿寒湖畔エコミュージアムセンターを核とする美化清掃、自然ふれあい活動行事等の開催により参加者数の増加を図ったが、各事業の定員制限や天候不良による行事中止等により、目標達成には至っていない。 ・住民や地元小中学生による清掃活動等へのボランティア、自然保護活動への参加が定着し、自然に対する環境意識が高まっている。	H22年6月末日
	指標4									あり なし			
	指標5									あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値	目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み			
	その他の数値指標1	防災拠点施設収容人員	人	106	H16				130			防災機能の向上に資する地域交流センターの整備により、地区の防災拠点施設として災害時の収容人員増につながった。	
	その他の数値指標2	観光案内所利用者数	人/年	22,188	H16				32,300			地域交流センター整備が阿寒湖温泉のイメージアップに大きく貢献し、観光案内利用者が大幅増となったことから、今後の観光入込客数の増が期待される。	H22年4月末日
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	・花いっぱいプロジェクトの継続により、温泉街に花が増えて美しくなった。 ・観光入込客、宿泊客とも減少傾向が続いているが、外国人客は大きく伸びている。宿泊客は、一般団体客が減少して宿泊単価の高い個人・グループ客が増加している。 ・阿寒湖畔エコミュージアムセンター主催事業のほか、環境省主催の景観学習事業等への参加者も増えており、さらにはツアーガイドの養成等により今後の自然保護活動事業参加者の増加が見込まれる。 ・公共老人福祉施設の機能を集約した地域交流センターの整備により、跡地に民営による福祉サービス拠点施設「共生型多機能施設」が整備される予定である。												
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス	地域交流センターの施設及び設備の機能・規模、施設の運営方法に係る協議検討を行なうための阿寒湖温泉地区多目的施設建設計画委員会の設置。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	・広く地域住民が活用できる施設建設に向けての委員会であり、委員の任期は平成20年度末とした。	
	持続的なまちづくり体制の構築	NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構において、「阿寒湖温泉再生プラン2010」の成果や評価分析を行ない、さらに温泉街の活性化に向けたプランニングを継続的に実施し、今後も継続してまちづくり活動を推進。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	・再生プランの実現に向け関係機関との連携を強化する ・NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構への継続支援	

様式2-2 地区の概要

阿寒湖温泉地区（北海道釧路市）まちづくり交付金の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標『こちよい湖畔、のんびり温泉 阿寒湖』 目標1 滞在滞在体験型観光の推進 目標2 交流拠点を核としたコミュニティ機能の充実 目標3 自然と共生する観光地づくり		観光客入込数	単位：人/年	1,700,000	H16	1,900,000	H21	1,040,000	H21
		コミュニティ施設利用者数	単位：人/年	4,134	H16	19,200	H21	19,500	H21
		自然保護活動参加者数	単位：人/年	500	H16	1,000	H21	500	H21
			単位：		H		H		H
			単位：		H		H		H
 高次都市施設：地域交流センター  住民説明会  地域創造支援事業：公共施設解体撤去事業（旧阿寒湖畔福祉センター）  ■基幹事業（地域生活基盤施設）広場 ■基幹事業（高次都市施設）地域交流センター □投資事業（まちづくり活動推進事業）阿寒湖温泉再生2010推進事業 マップ制作事業 □投資事業（まちづくり活動推進事業）阿寒湖温泉多目的センター整備事業 公共施設解体撤去事業（阿寒湖温泉支所解体撤去） □投資事業（まちづくり活動推進事業）花いっぱいプロジェクト □投資事業（まちづくり活動推進事業）商店街のにぎわいづくり事業 まちづくり交付金事業区域 面積100ha 交付期間：平成18年度～平成21年度  阿寒湖温泉商店街  地域創造支援事業：阿寒湖温泉多目的センター整備事業、公共施設解体撤去事業（旧阿寒湖温泉支所）  まちづくり活動推進事業：花いっぱいプロジェクト									
まちの課題の変化	・東西に二分されている商店街の中間に、地区コミュニティ、行政サービス、交流・情報発信などの複合的な機能を持たせた地域交流センターを整備するとともに、周辺環境の整備や住民活動への支援を行うことにより、地域の交流が盛んとなり、更には往來する人の流れが増え、阿寒湖温泉のにぎわいの核となっている。 ・各所の手湯・足湯を花壇や誘導サインなどで結ぶ一体感のある整備を進め、歩いて温泉街を楽しめる街並みづくりや、活気が低下しつつある商店街の魅力の回復のために、2つの商店街の間で観光客の流動を促す仕掛けづくりが必要である。								
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・温泉街の交通システムの改善 大型バスやマイカーの市街地乗り入れによる路上駐車などがあり、また、誘導看板なども不足していることから、徒歩で散策する観光客の快適性を失わせており、来訪者の車を市街地に滞留させないための適切な誘導方法や効率的な駐車場利用について、抜本的な交通システムの改善を図る。歩行者に優しい道路として、歩道の凸凹や車道との段差解消等の早期整備を図る。 ・滞在滞在体験型観光の推進 自然環境の保護・復元、アイヌ文化の活用、森と湖、スキー場といった自然のフィールドでのアウトドアアクティビティを中心とした「見る、体験する」プログラムづくりや急増する外国人観光客に対応すべく、宿泊施設や立ち寄り施設での多言語対応などのソフト面を充実させる。 ・行政、関係機関との連携強化 景観や交通関係のプロジェクトの進捗を早めるため、行政、関係機関との連携を強化する。 阿寒湖温泉を取り巻く環境変化に対応した取組みを推進し、優れた自然を有効活用することにより、付加価値、創造性を高める。								